

施策番号	施策名	安心子育てプロジェクト	基本的方向	誰もがいきいきと安心して暮らせる地域をつくる		
			基本目標	安心して子育てできるまちづくり		
3-1	主管課	子育て支援課	課長名	佐々木 雅之	内線	168
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図	結果						
妊娠・出産、子育てに関する悩み・不安の解消を図り、安心して子育てできる環境づくりを進める。また、経済的理由などにより、子どもを産み育てることを断念することのないよう支援の充実を図る	子ども	出生率向上のため、阻害要因を取り除く取組を進める	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる						
重要業績評価指標 (KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2024年度(目標)
① 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	96.5	89.0	88.6	89.7	86.4	88.3	90.0
② 不妊治療費助成件数	実績数(累計)	件	15	14	7	25	29	48	15
③ 保育所待機児童数	実績数	人	0	0	0	0	0	0	0
評価指標設定の考え方	①は、町民を対象とした住民意識調査の結果を成果指標として設定 ②は、妊娠・出産を望む者に、不妊治療費を助成した件数を成果指標に設定 ③は、保育所待機児童ゼロを継続するため、成果指標に設定								

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算	2024年度決算
施策事業費(千円)	758,697	775,224	827,205	880,935	943,984
人工数(業務量)	3.5069	3.1910	3.3302		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2024年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は微増、成果指標②は増、成果指標③は0を継続 特に、不妊治療費助成件数が大幅に増加しており、施策への貢献が顕著
② 第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・目標値としては、2024年度の「合計特殊出生率」は未算定であるものの前年度(1.20)を踏まえ出生数から想定される数値はさらに下がる見込みであり未達成。「育児が楽しいと感じる親の割合」は93.8%と目標を達成している ・待機児童0を継続するとともに、子ども医療費独自助成拡大など、施策を構成する事務事業全体として、基本目標である「安心して子育てできるまちづくり」が進んでいる ・成果指標①については、現在育児中の回答者のみではなく直接のサービス受益者とならない年齢層の方々を多く含む結果であることに加え、価値観の多様化が進むなかで、90%という満足度を恒常的に得ることは非常に厳しい条件であるため、第3期総合戦略においては、評価指標を85%以上としている
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	妊婦相談・支援事業 こども家庭センター運営事業 保育事業 子ども医療費給付事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	・少子化が進行するなかで、妊娠期から子育て期まで、保護者に寄り添ったきめ細やかな相談体制の強化と、利用者目線の支援体制充実を図っている ・保護者が安心して育児と就労の両立を図れるよう、保育施設及び子どもセンター等、保育環境の充実を図り、待機児童ゼロも継続している ・国や道の助成制度(幼児教育・保育無償化、医療費助成等)に町独自支援策をプラスし、子育て世帯の経済的負担軽減を図っている ・2022年度には、町補助事業により、保育施設の全保育室等にエアコンが設置され、2023年度より稼働。保育環境が大きく向上した		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)

担当課 評価	・2022年度には、町補助事業により、保育施設の全保育室等にエアコンが設置され、2023年度より稼働。保育環境が大きく向上 ・2023年度より、子ども医療費助成の対象を高校生年齢まで町独自に拡大し、経済的負担を軽減 ・2023年度に民間放課後児童クラブ「アンジャリ」が誕生し、選択肢拡大 ・2024年度に母子保健機能と児童福祉機能を併せ持つ「子ども家庭センター(めむろん)」を開設 ・2024年3月より供用開始している総合体育館内のキッズスペースは、季節や天候に関係なく子どもを遊ばせることのできる場が欲しいとする保護者の声から誕生し、定着 ・不妊治療費助成においては特定不妊治療に加え、2022年度に一般不妊治療の助成を開始し、2023年度に、交通費や宿泊費を対象経費に追加し、利用実績が大きく増加 ・このほか、施策を構成する事業全体として、基本目標である「安心して子育てできるまちづくり」が進んでいる		A	B	C	D	E
	進捗結果				○		

A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した  
 D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	令和6年度に、本町の子ども・子育て政策を総合的に推進する計画である「子ども・子育て支援事業計画」の次期計画(7年度～11年度)を策定。 本計画は、国の「こども大綱」や「都道府県子ども計画」を勘案した「市町村子ども計画」として一体的に策定するとともに、「母子保健を含む成育医療等に関する市町村計画」としても位置付けるもの。 少子化の進行や晩婚化・晩産化傾向が続く中で、安心して子どもをうみ育てることができ、未来を担う子どもが健やかに育つ環境づくりや、子育て支援体制の整備に取り組むとともに、さまざまな事情や背景の家庭に対応した相談・援助体制の充実と、妊娠から出産、子育て期に至るまでの切れ目のない支援を実践する旨を規定。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・「子どもにやさしいまちづくりについて」として、令和6年6月定例会議において一般質問を受けている ・「子どもの権利が尊重されるまちづくりについて」として、令和6年3月定例会議において一般質問を受けている ・「第3期芽室町子ども・子育て支援事業計画(芽室町子ども計画)案」に対する芽室町総合保健医療福祉協議会からの答申書において、「子どもの権利に関する条例を制定する町として、子ども・若者の参加する権利を保障し、まちづくりへの参画、意見反映に努められたい」とする意見が付されている

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・保育を必要とするすべての子どもが質の高い幼児教育・保育を受け続けることの基盤となる、人財の確保策 ・妊娠から出産・子育て期に至るまでの切れ目のない支援を実践し、すべての子育て家庭がそれぞれのニーズや状況にあった子ども・子育て支援施策を円滑に利用することができるための取組 ・妊娠・出産・子育て期における支援とライフステージに応じた子どもの育ちを支える切れ目のない支援体制を構築することで、親子の生涯に渡るウェルビーイングの基盤を培うことを目指す
---

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	重要業績評価指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。				○		

A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した  
 D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	特になし。				○		

A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して)前進した  
 D: (総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して)後退した